



みなみの風

坂下南小学校
学校だより
NO. 2
R6. 4. 12
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム & チャレンジ! ~あいさつ・はっぴよう・なかとじぶん~

子どもたちを見守る地域の方々の温かいまなざし

登校時、子どもたちに寄り添い、安全を確保してくださっている見守り隊の皆様をはじめ、地域の皆様のおかげで子どもたちが安全に登校できています。雨風が激しい日も子どもたちのために見守りをしてくださり、感謝に堪えません。

地域の皆様の温かいまなざしに見守られながら、安心・安全に生活できる坂下南小の子どもたちは本当に幸せだなと感じています。



強い雨風の中、子どもたちの安全を確保
してくださっています。(9日の朝の様子)



「見守る」ということ

夕暮れのヘッドライト 福井県上中町 松宮 麻季(35歳)

何年も前のことでした。夜といっても夕方のこと。でも季節が冬なので辺りは真っ暗闇でした。私の乗ったバスはもうすぐ峠道にさしかかるところでした。麓の村の停留所で、中学生が一人降りました。部活動からの帰りでしょう。暗いバス停に降りたって、道路から集落への細い道を慣れた足取りで歩き始めました。ところが、乗る人も降りる人もいないのにバスは動きません。時間調整のためでしょうか。しばらくライトを皓々とつけたまま止まっています。そして、ようやく「ブルンッ」と音を立てて出発。一体何だったのでしょうか。

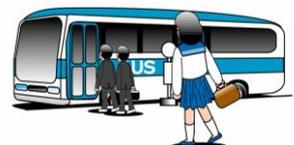
後になってようやく分かりました。集落への細い道が急な坂道で、しかも暗いため、バスのヘッドライトは中学生の足下を照らす明かりとなっていたのです。

福井県若狭地方と滋賀県近江今津を結ぶ鯖街道のJRバス。たまたまその日だけのことかと家に帰って話すと、母は何度も見たことがある、と言っていました。

『涙が出るほどいい話 第①集』河出文庫より

涙が出るほどではないにしても、仕事のやりがい、さりげない思いやりなど素敵な話だと思います。バスの運転手さんの部活帰りの中学生を見守る視線、これこそ、おうちの方や地域の方々が子どもたちを見守るまなざしと同じものであると思いました。温かいですね。

保護者の皆様におかれましては、地域での子どもたちの見守りをお願いいたします。子どもたちのことで、何かお気づきのことがございましたら学校までお知らせいただければ幸いです。



第1回交通教室を行いました

昨日行った交通教室では、警察署や交通指導員の方々にご指導いただき、また保護者の皆様に子どもたちの安全確保にご協力をいただき、道路の安全な歩き方や自転車の乗り方について学習しました。

保護者の皆様には、自転車運搬のご協力、ありがとうございました。



自転車の乗り方について、ご家庭でもご指導をお願いします！

自転車は、便利な移動手段ですが、スピードが出る分、交通事故の危険が隣り合わせです。警視庁の統計を見てみると、低学年では歩行中の事故が多いのに対して、中・高学年では自転車乗車中の事故が多く、特に5、6年生では事故の8割以上が自転車乗車中だということが分かります。高学年になると、放課後や休日は自転車で遊びに行くお子さんも多いのではないのでしょうか。自転車は、操作に慣れていても、一瞬の油断で命に関わる事故が起きることがあります。

子どもを**自転車の事故から守るポイント**についてお伝えします。

ポイント🔑 交通安全のルールやマナーを**具体的に**伝える

自転車は、道路交通法では「軽車両」の扱いになり、「車の仲間」に分類されます。ひとたび事故が起きれば、乗っている人だけではなく、歩行者の命を奪ってしまうこともあることをお子さんに認識してもらわなければなりません。

「やってはいけないこと」、「気をつけなくてはならないこと」を理解させるためには、より具体的に伝える必要があります。



「道路では歩いている人が優先だから、むやみにベルを鳴らして歩行者をどかさ運転をしてはいけないよ」

「運転中は友達とおしゃべりをしない。話があるときは安全な場所に止まってから」
「道幅が狭いところや人が多いところでは、自転車を降りて押して歩くんだよ」

など、状況に応じた対処方法を具体的に教えてください。

時々、お子さんが自転車に乗っている姿を確認して、危険な行為がないか見てみるとよいと思います。お子さんの命を守るためには、「ルールを守れないなら自転車を取り上げる」というくらいの厳しい気持ちで向き合ってください。

また、万が一事故に遭っても、ヘルメットを着用していたことで命が守られることがあります。お子様尊い命を守るために、ヘルメットの着用を徹底させてください。

